

第Ⅴ章 史跡飯田古墳群の価値

1 節 飯田古墳群の本質的価値

本節では、史跡指定にあたって文化庁から示された指定理由やこれまでの調査研究の成果を踏まえて本質的価値を整理する。なお、本節で史跡飯田古墳群の本質的価値を述べるにあたって、史跡と不離密接な関係にある飯田古墳群全体を加味した上で整理する。

1. 馬を介したヤマト王権との密接な関係により成立した古墳群である

飯田古墳群は、5世紀中葉に突如として前方後円墳築造が始まり、6世紀末まで築造が継続する古墳群である。これまで知られている前方後円墳の数は帆立貝形古墳も合わせて27基あるが、これは長野県内の前方後円墳数の約半数を占める。また、5世紀中葉以降、鉾留甲冑や武器類が数多くもたらされていることから、この時期にヤマト王権との関係が急速に深まったと考えられる。

さらに、本古墳群の出現に関わるのが、同時期にもたらされた馬の存在である。飯田市域では、5世紀代に遡る馬の存在を示す遺構や、馬とともにもたらされた馬具等が数多く確認されている。馬は古墳時代に、政治戦略（軍事力・輸送力の強化）の一環として大陸から新たに導入された動物で、その重要性和希少性から、日本における本格的な馬匹生産はヤマト王権主導のもとで進められたとされる。

本古墳群の存在は、当地域が軍事的な面はもとより、陸上（内陸）交通の要となる馬の生産管理を担う重要な地域として、ヤマト王権の地方経営の一翼を担っていたことを物語っている。



写真16 溝口の塚古墳出土甲冑

2. ヤマト王権による政治的な画期の様相を示す古墳群である

5世紀中葉は、長野県において画期となる時期である。4世紀以来、前方後円墳築造の中心地であった県北部（善光寺平）の埴科古墳群で築造が終息するのと相前後して、5世紀中葉には県南部（伊那谷南部）の飯田古墳群で築造が開始される。

このように、4世紀から5世紀にかけて前方後円墳が盛行する地域と、一方5世紀以降になって前方後円墳が盛行する地域とが存在することは、日本各地でも知られており、中央と地方との政治的関係に大きな変化が生じた時期（画期）として捉えられている。

この時期のヤマト王権は、緊迫した東北アジア情勢を背景に、政治戦略として新たな鉄器生産技術や馬匹生産技術等を積極的に取り入れて、国内外への影響力の強化を図ったと考えられる。特に国内においては、沿岸部から内陸部へと前方後円墳築造地が移動する傾向があることから、背景に陸上（内陸）交通網の発展による地方経営戦略の変化が想定される。

本古墳群の出現は、ヤマト王権による政治戦略の変革期の様相を反映するものであり、特に陸上（内陸）交通網を軸とした地方経営（東国経営）の動向を物語るものである。

3. ヤマト王権による地方経営の実態を示す古墳群である

飯田古墳群は、主に天竜川支流や段丘崖を境として複数の単位群に分けられる。一体性のある古墳群として、墳丘・石室の構造等の古墳がもつ諸要素において単位群間での共通点も多く、互いに密接な関係性をもつ一方、単位群ごとの独自性も認められる点に大きな特徴がある。

5世紀中葉から6世紀中葉にかけては、座光寺・上郷・松尾・竜丘・川路の5つの単位群で連続した前方後円墳の変遷を追うことができる。このことは、当初から前方後円墳の築造を担う集団が複数存在し、それぞれの主体性が維持されていたことを示している。

6世紀初頭には横穴式石室が導入されるが、初期の段階は単位群によって異なる構造の石室が採用されている。無袖の横穴式石室は前方後円墳のみならず円墳の埋葬施設としても広く採用されるが、座光寺単位群では竪穴系横口式石室の系譜に繋がる石室、上郷単位群では細長い羨道部を有する両袖式の石室、松尾単位群では片袖式の石室が採用されており、単位群ごとに独自性が認められる。

6世紀後半になると、松尾と竜丘単位群では巨石を用いた畿内的な両袖式横穴式石室を有する前方後円墳が築造される。これは、ヤマト王権の影響力が強まり、主体性をもっていた集団間の関係に変化が



写真17 おかん塚古墳の横穴式石室

生じたことを示すと考えられる。最終的に、6世紀末には本古墳群は終息する。

以上のような単位群の様相は、地方が中央との関係を軸としながらも、在地勢力としての自主性が認められていたことを示す一方、6世紀後半にみられる在地勢力の再編成は、ヤマト王権による東国経営強化の過程を示すものと捉えられる。

本古墳群の動向は、ヤマト王権による地方経営の実態を反映しており、中央集権国家体制への移行期における中央と地方との関係を地方の視座から窺い知ることができる。

4. 陸上交通の拠点という地の利を活かして発展した古墳群である

飯田古墳群はヤマト王権との密接な関係を基軸として成立した古墳群であるが、各古墳の特徴の中には、ヤマト王権からの影響だけでは説明できない多様な要素が含まれている。

例えば、松尾単位群は埴輪を採用しない前方後円墳が多い一方、埴輪を採用する他の単位群の前方後円墳の中には、5世紀代には東海を含む西方や長野県北部（北信）からの影響が想定されるもの、6世紀代には関東からの影響が考えられるものが存在する。

また横穴式石室は、朝鮮（韓）半島ないしは九州の竪穴系横口式石室の系譜に繋がる石室、関東特に群馬との類似性が考えられる細長い羨道部を有する石室等、導入当初から複数系統のものがある。

このことは、周辺諸地域と独自の交流があったことを示すもので、飯田の地が陸上（内陸）交通の拠点、東西日本を結ぶ結節点に位置しているがゆえの特性であると考えられる。

本古墳群にみられる多様性は、内陸部における地域間交流の実態を窺い知ることができるものであり、さらには、東西を結ぶ陸上交通網の実態をも示すものであるといえる。

5. 伊那谷南部の特徴的な地形を利用した古墳分布

飯田古墳群が所在する伊那谷南部の天竜川右岸（竜西）は、雛壇状の段丘地形と天竜川支流の浸食により形成された田切地形を特徴とする。特に、比高差のある段丘崖や天竜川及びその支流が、現在の行政界や地区界となっている。

本古墳群の分布は、北から座光寺・上郷・松尾・竜丘・川路の5つの単位群に分けられるが、単位群の形成も段丘崖や河川といった地形を意識している可能性が高い。一方で、境界（単位群）を越えた共通性が認められ、一体性のある古墳群として捉えられる。このことから地形は、本古墳群の特徴である独自性をもつ単位群の成立と、その全体を支える地域圏の形成に関わるものとして重要な意味をもつ。

2 節 飯田古墳群をとりまく古墳・遺跡の価値

1. 飯田古墳群の出現に先行する前方後方墳

飯田市域には4世紀に築造された大型古墳として、3基の前方後方墳がある。代田山狐塚古墳（県史跡）と、近年の発掘調査で確認された羽場獅子塚古墳と笛吹2号古墳である。前方後方墳は、当地域における本格的な古墳築造の開始を示すものである。一方、前方後円墳で構成される飯田古墳群が出現するのは5世紀中葉であることから、一定期間、大型古墳が造られない期間がある。

前方後方墳の存在は、当地域における古墳文化の受容が飯田古墳群の出現より遡ることを示している。さらに、前方後方墳と前方後円墳との間に断絶がみられることは、それぞれが異なる社会背景のもとで成立したことを示しており、地方における古墳文化波及の経緯を知る上で重要である。

2. 馬匹文化の受容と広がりをお語る馬の埋葬遺構と遺物

古墳時代の馬は、軍事的利用がある一方、陸上（内陸）交通を担う輸送手段としても重要視された。日本に馬がもたらされたのは4世紀に遡るが、馬の飼育と利用が本格化するのは5世紀である。

飯田下伊那地域では発掘調査で馬の埋葬遺構が約30例確認されている。この中には、鑣轡等の初期馬具を伴うものがあり、5世紀中葉という全国的にも早い段階に馬匹文化がもたらされたことがわかる。馬匹文化は飯田古墳群の成立に深く関わるものであるが、日本における馬匹文化の広がりや、内陸部であるという地理的特徴から東西地域を繋ぐ交通の発展を物語るものとして重要である。



写真18 宮垣外遺跡出土馬具

3. 飯田古墳群と密接に関わる円墳のあり方

飯田市域にかつて存在したとされる520基を越す古墳のほとんどは中小規模の円墳である。このうち、飯田古墳群が盛行する5世紀中葉から6世紀にかけて築造された円墳には、馬の埋葬や馬具を伴うもの、複数の鉾留甲冑や武器類を副葬品とするものが多い点が特筆される。特に、馬を伴う円墳と前方後円墳（帆立貝形古墳）とが一つの墓域を構成している場合（新井原・高岡古墳群、溝口の塚古墳と宮垣外遺跡、

茶柄山古墳群等）が多く、前方後円墳と円墳とは密接な関係があることがわかる。塚原二子塚古墳一帯では、前方後円墳、帆立貝形古墳、円墳が群をなす姿を見ることができる。

一方、6世紀に入り、円墳の埋葬施設として横穴式石室が導入される頃になると、前方後円墳の分布域から離れた河川沿いや山沿いの段丘上に、円墳のみで小規模な群をなすものが増加する。なかには、前方後円墳に匹敵する規模の横穴式石室を有する円墳（石塚1号・2号古墳等）も存在する。円墳のあり方からは、前方後円墳だけでは読み取れない、当地域の社会構造を知ることができる。



写真19 塚原古墳群から天竜川を望む（北側より）

4. 古墳築造を支えた集団の居住域

古墳の立地からみて、飯田古墳群の築造を支えた集団の主な集落域は、古墳の下段に広がる天竜川氾濫原に面した段丘上に位置すると考えられる。一方、本古墳群の分布域からは離れるが、天竜川支流に沿った段丘面や山沿いにも中期から後期の集落が存在する。その中にはカマドの導入にみられるように、いち早く新しい生活様式を取り入れている集落がある。

古墳と集落の分布や変遷を合わせて考えることにより、古墳築造を可能とした地域社会の実態を知ることができる。

5. 飯田古墳群から伊那郡衙成立までの歴史的変遷を追うことができる恒川遺跡群

飯田古墳群の築造終息後は、権力の象徴であった前方後円墳築造が寺院建立へと替わり、奈良時代には伊那郡衙（史跡恒川官衙遺跡）が設置される。伊那郡衙は、東山道最大の難所であった神坂峠を控え、東国の玄関口に位置する官衙としての特性を有する。特に、文献にみられる伊那郡大領金刺舎人八麻呂は信濃国牧主当であり、御牧を管理する立場にあった。馬を介した中央との密接な関係は、すでに飯田古墳群の成立時には構築されており、古墳時代に馬匹生産管理を担う陸上交通の拠点であったことが、



写真20 史跡恒川官衙遺跡から高岡第1号古墳を望む（南西側より）

伊那郡衙設置に繋がっていると想定される。

特に、伊那郡衙が設置された座光寺地区には、高岡第1号古墳が所在する。本古墳の南側一帯には集落域となる恒川遺跡群と伊那郡衙（史跡恒川官衙遺跡）、西側には瓦の出土から古代寺院の存在が推定される古瀬平遺跡があることから、馬を介して発展した当地域の歴史的変遷を追うことができる。

3節 史跡飯田古墳群の構成要素

本節では、史跡の本質的価値を保存継承するために、史跡飯田古墳群及びその周辺を構成する諸要素を抽出し、整理する。

1. 構成要素の分類

史跡飯田古墳群の構成要素は、「本質的価値を構成する諸要素」と「本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素」の2つに分けられる。前者は、古墳そのものを構成する墳丘（盛り土・葺石等）と埋葬施設（竪穴式石室・横穴式石室等）、墳丘を巡る周溝等、墳丘上や埋葬施設内の出土遺物、古墳が立地する地形に係る諸要素を示す。後者は、古墳が築造されてから現在に至るまでの長い時間の経過の中で古墳の墳丘上やその周辺に新たに加えられた諸要素を示す。

なお、構成要素の分類にあたり、史跡として指定されている13基の古墳だけでなく、不離密接な関係にある飯田古墳群全体を念頭において整理した（図17）。

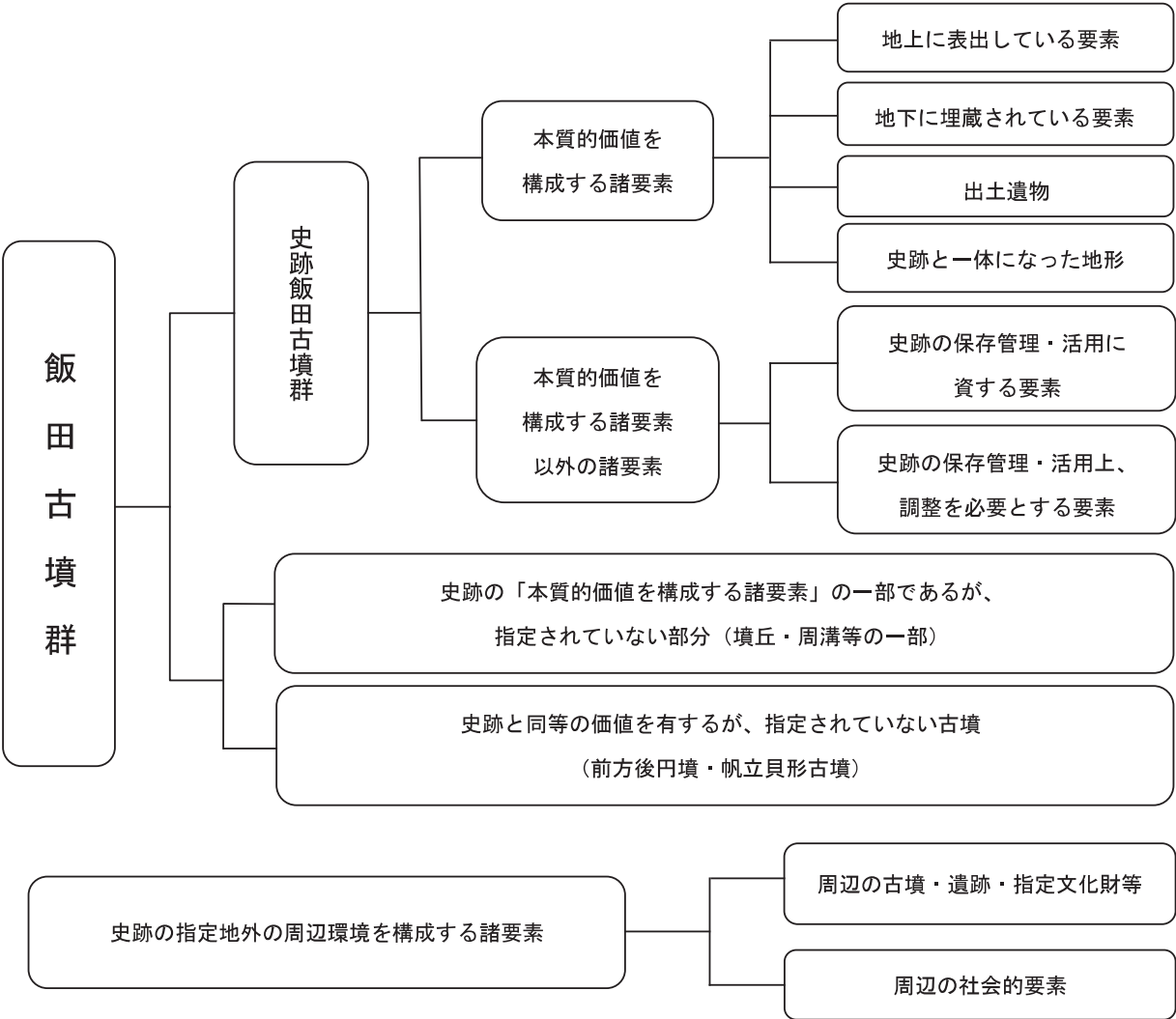


図17 構成要素の分類

2. 構成要素の内容

前項の構成要素の分類に基づいて、構成要素ごとの内容を示す（表3）。

表3 構成要素の内容

構成要素			内 容
飯田古墳群	史跡飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素	地上に表出している要素（遺構） ・墳丘（盛り土、葺石等） ・埋葬施設 地下に埋蔵されている要素（遺構） ・周溝、外周区画溝等 出土遺物 ・発掘調査等による既出遺物及び埋蔵されている遺物（墳丘上の埴輪・土器類、埋葬施設内の副葬品等） 史跡と一体になった地形 ・古墳（群）が立地する地形等
		本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	史跡の保存管理・活用に資する要素 ・標識、解説板、古墳名表示石碑、遺跡案内板、土地境界標等 史跡の保存管理・活用上、調整を必要とする要素 ①木竹（果樹を含む） ②建築物 社寺（社殿・氏神祠等）・住宅等 ③工作物 社寺関連（鳥居・狛犬・灯籠・石造物等） 墓地区関連（墓石・供養塔・墓地区画施設等） 農業用施設（ビニールハウス・果樹棚等） 道路安全施設 水道施設（用排水路・集水桝等） 電気通信施設（電柱等） 公園設備（遊具・ベンチ等） 園路（石段・石橋等） 石積・擁壁・フェンス等 その他工作物（看板等） ④道路 ⑤その他、史跡に影響を及ぼす要素
		史跡の「本質的価値を構成する諸要素」の一部であるが、指定されていない部分	史跡の一部を構成する要素 ・墳丘（盛り土、葺石等）の一部 ・埋葬施設の一部 ・周溝、外周区画溝等の一部 ・上記に付随する出土遺物
		史跡と同等の価値を有するが、指定されていない古墳	飯田古墳群を構成する古墳のうち、指定されていない古墳 ・前方後円墳、帆立貝形古墳
	史跡の指定地外の周辺環境を構成する諸要素		周辺の古墳・遺跡・指定文化財等 ・史跡と密接に関わる古墳・遺跡 ・その他の古墳・遺跡 ・指定文化財等
			周辺の社会的要素 ・土地利用、交通、便益施設等

3. 構成要素の把握と整理

本項では、前項の構成要素の内容に基づき、史跡飯田古墳群の各古墳が有する諸要素のうち主要なものについて整理した（表4～6）。なお、個別古墳の概要は、本質的価値の内容については本文の巻末資料、土地利用の現況については参考資料2（CD収録）に記載した。

表 4 古墳の構成要素整理表（１）

史跡飯田古墳群				高岡第1号古墳	飯沼天神塚 (雲彩寺) 古墳	御射山獅子塚古墳	おかん塚古墳	姫塚古墳
				前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳
飯田古墳群	史跡飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素	素し地上に在る表要出	墳丘（盛り土・葺石） 埋葬施設（横穴式石室）	墳丘（盛り土・葺石） 埋葬施設（横穴式石室）	墳丘（盛り土・葺石）	墳丘（後円部盛り土） 埋葬施設（横穴式石室）	墳丘（盛り土） 埋葬施設（横穴式石室）
			要素され地下に埋蔵	周溝 外周区画溝 埴輪				
			出土遺物	埴輪 円筒・朝顔形埴輪 形象・人物埴輪等 馬具・装身具等	馬鈴・金環等 「雲彩寺所蔵古物之図」	(伝)鏡等	武器・馬具・装身具等	七鈴鏡
			な史跡と一体に った地形※	標高440m 地形区分 下段（A2地形） 洪水砂(未満水)の堆積	標高430m 地形区分 下段（A2地形）	標高450m 地形区分 上段（F2地形）	標高420m 地形区分 下段（B2地形）	標高420m 地形区分 下段（B2地形）
	史跡飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	要素用に資する 保存管理・活用	史跡解説板 周辺遺跡案内板 県史跡土地境界標	標識（県史跡標柱） 古墳案内板 史跡解説板（指定地外）	史跡解説板（可動式） 土地境界標	史跡解説板（可動式） 古墳名表示石碑 土地境界標	史跡解説板（指定地外）
			史跡の保存管理・活用上、調整を必要とする要素	立木（ヒノキ・スギ等） 低木植栽（アジサイ等） 切株 高岡神社社殿	立木(サクラ・モミジ等) 低木植栽（サツキ等） 木竹切株 雲彩寺	立木（サクラ） 低木植栽（ツツジ等）	低木植栽	立木(ウメ・ツバキ等) 竹林 氏神祠
				鳥居、灯籠、竿立、石柱、参道（石段・石橋） 排水パイプ	墓石・墓道・墓地看板 墓地区画擁壁		墓石 墓地区画石積・フェンス	鳥居、灯籠、供養塔 参道（石段・石橋）
				石造物（石碑・馬頭観音等）	石造物（宝篋印塔・五輪塔）			建物表示看板
				カーブミラー、交通安全表示板、水道施設、電柱 可動式木製ベンチ		カーブミラー、電柱・支線	電柱	
				石積・木製柵	石積	石積、ブロック積	石積、擁壁、階段	石積、フェンス
				旧蚕種保存用通風孔（石室裏）	小動物の巣穴			
				高岡遺跡 墳丘の一部 周溝の一部 外周区画溝の一部	堀尻遺跡 墳丘の一部 周溝の一部	松尾北の原遺跡 墳丘の一部 周溝の一部	上溝遺跡 墳丘の一部 周溝の一部	上溝遺跡 墳丘の一部 周溝の一部
史跡の指定地外の周辺環境を構成する諸要素	文化財等 周辺の古墳・遺跡・指定	市史跡「畦地1号古墳」 畦地古墳群 新井原・高岡古墳群 馬関連遺構等 新井原・石行遺跡 恒川遺跡群 史跡「恒川官衙遺跡」	化石古墳群 宮垣外遺跡・高屋遺跡 古墳・馬関連遺構等 市有形「旧飯田城の桜丸西門(雲彩寺山門)」 宝篋印塔・五輪塔	茶柄山古墳群 馬関連遺構等 上溝古墳群 上溝遺跡 松尾八幡原遺跡	上溝古墳群 上溝羽場遺跡	上溝古墳群 羽場獅子塚古墳 上溝羽場遺跡		
		周辺の社会的要素	住宅、店舗 農地（畑・果樹園） 用水路 国道、県道、市道、認定外道路 JR飯田線(元善光寺駅)	住宅、店舗、社寺 農地（田・畑） 栗沢川、用水路 国道、市道	住宅、墓地 農地（畑） 用水路 国道(バイパス)、市道 JR飯田線（下山駅）	住宅、店舗、墓地 農地（畑） 上溝集会所・駐車場 国道(バイパス)、市道 JR飯田線（下山駅）	住宅、農地（田・畑） 上溝集会所・駐車場 上溝公園・トイレ 用水路 市道、認定外道路 JR飯田線（下山駅）	

表 5 古墳の構成要素整理表（2）

史跡飯田古墳群				上溝天神塚古墳	水佐代獅子塚古墳	大塚古墳	鏡塚古墳	鎧塚古墳	
				前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	帆立貝形古墳	帆立貝形古墳	
飯田古墳群	史跡飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素	素し地上に表出	墳丘（盛り土・葺石） 埋葬施設（横穴式石室）	墳丘（盛り土・葺石）	墳丘（盛り土・葺石）	墳丘（盛り土・葺石）	墳丘（盛り土・葺石）	
			要素され地下に埋蔵					周溝等	周溝等
			出土遺物	武器・馬具・装身具等	埴輪 円筒埴輪等 武器・馬具等	埴輪 円筒埴輪 形象・鳥形埴輪等 五鈴鏡	埴輪 円筒埴輪等 (伝)鏡	埴輪 円筒・朝顔形埴輪 武具・馬具等	
			史跡と一体になった地形※	標高420m 地形区分 下段（B2地形）	標高405m 地形区分 下段（B2地形）	標高430m 地形区分 下段（C地形）	標高405m 地形区分 下段（D地形）	標高405m 地形区分 下段（D地形）	
	本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	史跡の保存管理・活用上、調整を必要とする要素	要素用保存管理・活用に資する	史跡解説板（可動式） 古墳名表示石碑	史跡解説板（指定地外）	史跡解説板（可動式） 古墳名表示石碑	史跡解説板 土地境界標	史跡解説板 土地境界標	
			低木植栽（ツツジ等）	竹林 低木植栽（サツキ等） 切株	立木（ヒノキ・スギ等）	立木（果樹）	立木（ハナモモ・果樹）		
			天神社社殿、薬師堂社殿						
			鳥居、灯籠、狛犬、旗立、祠、石造物、参道（石段）		墓石、供養塔、墓地区画石積				
					果樹棚		パイプハウス、果樹棚水溜		
					公衆用道路（認定外道路）	電柱支線	電柱支線		
			遊具、可動式ベンチ						
			石積、擁壁、フェンス	石積、擁壁	石積	石積、擁壁	石積		
			畑	果樹園、畑	畑、果樹園				
史跡の指定地外の周辺環境を構成する諸要素	文化財等 周辺の古墳・遺跡・指定	史跡を含む遺跡（本質的価値を構成）	上溝遺跡 墳丘の一部 周溝、外周区画溝	水城遺跡 市史跡「水城の水佐代獅子塚古墳」 墳丘の一部・周溝	宮下原遺跡 墳丘の一部 周溝	塚原遺跡 墳丘の一部 周溝等の一部	塚原遺跡 周溝等の一部		
		周辺の社会的要素	上溝古墳群 上溝羽場遺跡	妙前古墳群 妙前遺跡 市天然記念物「水佐代獅子塚のエドヒガン」 市有形文化財「八間門」	丸山古墳 兼清塚古墳 前の原遺跡 小池遺跡	塚原古墳群 金山古墳群 金山遺跡 ガンドウ洞遺跡 蒜田遺跡	塚原古墳群 金山古墳群 金山遺跡 ガンドウ洞遺跡 蒜田遺跡		
		住宅、店舗 農地（田・畑） 上溝集会所・駐車場 国道、市道 JR飯田線（下山駅）	住宅 農地（田・畑） 水城コミュニティ防災センター・駐車場 国道、市道 JR飯田線（伊那八幡駅）	住宅、店舗 農地（田・畑） 市民農園・駐車場・トイレ 国道、市道 JR飯田線（時又駅）	住宅、店舗 農地（畑・果樹園） 市民農園・駐車場・トイレ 考古資料館・駐車場・トイレ 国道、市道 JR飯田線（時又駅）	住宅、店舗 農地（畑・果樹園） 市民農園・駐車場・トイレ 考古資料館・駐車場・トイレ 国道、市道 JR飯田線（時又駅）			

表 6 古墳の構成要素整理表（3）

史跡飯田古墳群					塚原二子塚古墳	馬背塚古墳	御猿堂古墳	史跡以外の飯田古墳群
					前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳	前方後円墳・帆立貝形古墳
飯田古墳群	史跡飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素	素し地上に在る表出要素		墳丘（盛り土・葺石） 石室石材	墳丘（盛り土・葺石） 埋葬施設（横穴式石室） 後円部の石室 前方部の石室	墳丘（盛り土・葺石） 埋葬施設（横穴式石室）	飯田古墳群を構成する古墳のうち、指定されていない古墳 ・八幡山古墳（帆立貝形古墳） ・代田獅子塚古墳（前方後円墳） ・塚越1号古墳（前方後円墳） ・権現堂1号古墳（前方後円墳） ・丸山古墳（前方後円墳） ・兼清塚古墳（前方後円墳） ・塚原3号古墳（帆立貝形古墳） ・金山二子塚古墳（前方後円墳） ・久保田1号古墳（前方後円墳）
			要さ地下に在る埋蔵要素		周溝 外周区画溝	周溝		
			出土遺物		埴輪 円筒・朝顔形埴輪 形象・人物埴輪等 (伝)冑	須恵器等	埴輪 円筒埴輪 形象・人物埴輪等 武器・馬具・装身具等 重文「画文帯四仏四獣鏡」	
			な史跡と一体になった地形※		標高405m 地形区分 下段（D地形）	標高420m 地形区分 下段（D地形）	標高390m 地形区分 下段（D地形）	
	飯田古墳群	本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	要素保存管理に資する活用		史跡解説板 古墳名表示（石柱・木柱） 土地境界標	史跡解説板	史跡解説板（指定地外） 土地境界標	※「史跡と一体になった地形」の項における地形区分は、「第三章1節 自然的環境」による
			史跡の保存管理・活用上、調整を必要とする要素		立木（果樹・サクラ等） 低木植栽（サツキ等） 切株	立木（ウメ等）、竹林 低木植栽（サツキ等）	低木植栽（サツキ等）	
					祠礎石、石碑（動物供養塔等）	墓石、墓地区画施設石積、参道（石段）	墓石、墓地区画石積・擁壁、墓道（園路）、石碑（「皇子霊神」）	
					水道施設、3級基準点	県史跡の標柱土台	公衆用道路（認定外道路） 県史跡の標柱土台	
					擁壁、フェンス	石積、擁壁、石段	石積	
					果樹園	畑		
史跡の指定地外の周辺環境を構成する諸要素			史跡を含む遺跡（本質的価値を構成）		塚原遺跡 外周区画溝の一部	上の坊遺跡 墳丘の一部 周溝の一部	開善寺境内遺跡 県史跡「御猿堂古墳」 墳丘の一部 周溝、外周区画溝	
			文化財等 周辺の古墳・遺跡・指定		塚原古墳群 金山古墳群 金山遺跡 ガンドウ洞遺跡 蒜田遺跡	上の坊遺跡 円墳等 西の塚遺跡 開善寺境内遺跡 上川路廃寺跡 重要文化財「開善寺山門」	開善寺境内遺跡 円墳等 西の塚遺跡 上の坊遺跡 上川路廃寺跡 重要文化財「開善寺山門」	
			周辺の社会的要素		住宅、店舗、墓地 農地（畑・果樹園） 市民農園・駐車場・トイレ 考古資料館・駐車場・トイレ 国道、市道 JR飯田線（時又駅）	住宅、店舗、社寺 農地（田・畑） 古墳見学者用駐車場 考古資料館・駐車場・トイレ 国道、市道 JR飯田線（時又・川路駅）	住宅、店舗、社寺 農地（田・畑） 考古資料館・駐車場・トイレ 久米川、用水路 国道、県道、市道、認定外道路 JR飯田線（時又・川路駅）	

※「史跡と一体になった地形」の項における地形区分は、「第三章1節 自然的環境」による